東北電力社誌「ブリッジ」

Bridge

3
March Vol.644
2014

特　集

震災から3年



CONTENTS

vol.644 2014 3

■表紙の写真から



いわき市は震災による被害を受けた上,東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者を受け入れている。いわき営業所に隣接する敷地には双葉郡楢葉町から避難している方々の仮設住宅があり,一日でも早い帰還を待ち望んでいる

■裏表紙の写真から



昨年,連続テレビ小説「あまちゃん」で一躍有名となった三陸鉄道。東日本大震災の津波により甚大な被害を受けたが,3年を経てようやく4月5日に南リアス線,6日に北リアス線が運転を再開し,全線で運行を再開する。海岸沿いにのびる真新しい線路は,明るい未来へと続いている

01 特集Ⅰ
震災から3年

15 特集Ⅱ
地域のお客さまから見た東北電力の今
—「東北電力の企業活動およびCSRの取り組みに関するアンケート調査」結果から—

Monthly News

20 ■「原子力のあり方に関する有識者会議」の第4回会合を開催

21 ■カタールガス3プロジェクト LNG売買契約締結の記念式典が執り行われる

22 ■送変電建設センター山形工事所で開所安全祈願祭が執り行われる

23 ■「東経連フォーラム in 岩手」を開催

24 コンプライアンス講座

25 平成26年2月　大雪による被害

27 退職者の方々

DATA FILE
電力需給実績／株価・出来高







震災から3年

東日本大震災から３年の月日が経過しました。
時間は傷を癒す良薬になってくれたでしょうか。
しかし，忘れてはいけないこともあるはずです。

東北電力の事業基盤であるこの東北の地では
多くの地域で甚大な被害を受け，
残念ながら復興したとは言い難い状況が続いています。
地域とともに歩む東北電力の一員として，
いま一度多くの傷跡が残る地域に思いを馳せてみませんか。
今月号では現地営業所の社員が，その目線で地域の今を伝えます。



３年前のあの震災は東北電力に，そして，
地域に衝撃と劇的な変化をもたらしました。
でも，立ち止まってはいられません。
この３年，東北電力は設備復旧の大きな山を越え，
新たなステージに進んでいます。
私たち一人ひとりも経験を糧として前に進みましょう。





― 次の３年に向かって　いまこそ地域とともに。

東日本大震災 3年のあゆみ



東日本大震災発生（女川町）（平成23年3月11日）

使命感



朝のこない夜はない



石巻営業所で所員を激励する海輪社長（平成23年3月27日）

災

平成23年

- 3月11日　東日本大震災発生
- 3月20日　八戸火力発電所3号機が運転を再開
- 5月31日　東新潟火力発電所港1号機が営業運転を再開
- 6月18日　東日本大震災に伴う停電について復旧に着手可能な地域の停電をすべて解消
- 6月18日　北部基幹系統500kV北上幹線が運用を開始
- 6月25日　500kV十和田幹線が運用を開始
- 7月下旬　新潟・福島豪雨が発生
- 7月30日　新潟火力発電所5号系列が営業運転を開始
- 8月26日　東新潟火力発電所港3号系列（緊急設置電源）が営業運転を開始
- 10月28日　森吉発電所が営業運転を開始
- 11月8日　「原子力のあり方に関する有識者会議」を設置
- 11月30日　275kV蔵王幹線が復旧し運用を再開
- 新仙台火力3号系列新設工事着工

猛威



新潟・福島豪雨により多くの塵芥が漂着した本名ダム（平成23年7月下旬）



緊急設置電源として営業運転を開始した東新潟火力港3号系列（平成23年8月26日）

戦列復帰

休止していた東新潟火力発電所港1号機は，供給力確保のため急ピッチで点検作業が進められた（平成23年5月31日　営業運転再開）





新仙台火力発電所3号系列において,当社で初めてのLNGタンク建設のため,基礎部コンクリート打設を実施(平成24年10月13日)

新仙台火力発電所1号機に炎が再び灯り,全所員の思いが結実した(平成23年12月10日)



復活の炎



女川原子力発電所がIAEAによる調査を受け入れ,その後耐震調査報告書が公開された(平成24年7月～8月)

躍動



東北電力旗東北ミニバスケットボール大会は2年ぶりに開催された(平成24年8月12～13日)

平成24年

- 12月20日 当社初のメガソーラー発電所となる八戸太陽光発電所が営業運転を開始
- 12月27日 新仙台火力発電所1号機が営業運転を再開
- 1月31日 新潟火力発電所6号機(緊急設置電源)が営業運転を開始
- 2月8日 仙台火力発電所4号機が営業運転を再開
- 4月5日 火力技術訓練センターが開所
- 5月25日 仙台太陽光発電所が営業運転を開始
- 6月21日 東新潟火力発電所5号機(緊急設置電源)が営業運転を開始
- 6月22日 秋田火力発電所5号機(緊急設置電源)が営業運転を開始
- 6月26日 275kV原町火力線が復旧し28日より運用を再開
- 7月2日 八戸火力発電所5号機(緊急設置電源)が営業運転を開始
- 7月30日～8月9日 女川原子力発電所が国際原子力機関(IAEA)の調査を受け入れる
- 8月12～13日 東北電力旗東北ミニバスケットボール大会を2年ぶりに開催
- 9月19日 東北ソーラーパワー設立
- 11月3日 原町火力発電所2号機が試運転を開始

新戦力



緊急設置電源として営業運転を開始した秋田火力発電所5号機(平成24年6月22日)

結集



仙台火力発電所4号機が営業運転を再開(平成24年2月8日)

八戸太陽光発電所の運転開始のボタンを押す佐々木青森県副知事(左)と安倍副社長(右)(平成23年12月20日)



光

挑戦



平成25年8月1日に「第1回調達改革委員会」を開催した
（平成25年7月31日）

苦渋の決断



浪江・小高原子力発電所建設
計画を取り止め
（平成25年3月28日）



電気料金値上げ申請の記者会見をする海輪社長（中），
矢萩副社長（左），稲垣常務（右）（平成25年2月14日）

世界の評価



平成25年5月24日に渡部原子力部長（現・常務）が女川原子力発電
所メンバーへ受賞報告（平成25年5月21日）



平成25年

- 12月12日 T-Master認定証授与
- 12月20日 「東通原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合」第一回評価会合
- 2月14日 電気料金値上げ申請
- 3月28日 浪江・小高原子力発電所建設計画を取り止め
- 3月29日 原町火力発電所2号機が営業運転を再開
- 3月30日 新潟グリーンプラザ閉館
- 4月9日 国際原子力機関（IAEA）による女川原子力発電所の耐震調査報告書の公開
- 4月23日 陸上自衛隊東北方面隊との連携協定締結
- 4月26日 原町火力発電所1号機が営業運転を再開
- 5月21日 世界原子力発電事業者協会（WANO）原子力功労者賞を受賞
- 5月29日 東通原子力発電所において防潮堤が完成
- 7月31日 調達改革委員会を設置
- 8月6日 電気料金値上げ認可

待望

原町火力発電所1号機が試運転を開始（平成25年1月28日）





新潟グリーンプラザ閉館（平成25年3月30日）

匠



「T-Master制度」初めての認定証授与式を開催
（平成24年12月12日）

東日本大震災 3年のあゆみ



運転を再開した第二沼沢発電所（平成26年1月21日）

連携



陸上自衛隊東部方面隊と連携協定を締結
（平成25年11月14日）



資源エネルギー庁長官から認可書を受領
（平成25年8月6日）

長かった道のり



石巻市長面・尾崎地区での配電設備復旧工事の完了をもって宮城支店管内の震災による停電は全て解消された（平成25年8月25日）

平成26年

- 8月25日　石巻市長面・尾崎地区において配電設備復旧工事が完了
- 8月26～30日　技術系インターンシップを再開
- 9月1日　電気料金値上げ改定
- 9月18日　豊実発電所が営業運転を再開
- 10月1日　豪州ウィートストーンLNGプロジェクトに関するLNG売買契約を締結
- 11月14日　陸上自衛隊東部方面隊との連携協定締結
- 12月27日　女川原子力発電所2号機の新規制基準への適合性審査を申請
- 1月17日　東通原子力発電所敷地内断層の活動性等の評価の追加調査結果を公表
- 1月21日　第二沼沢発電所1号機が運転を再開
- 2月4日　カタールガス3プロジェクトに関するLNG売買契約を締結
- 2月8日　東新潟火力発電所3号系列のガスタービンが発電時間20万時間に到達
- 3月1日　八戸火力発電所5号機がコンバインドサイクル方式による試運転を開始
- 3月11日　東日本大震災行事「全店の集い」を開催

一歩前進

女川原子力発電所2号機の新規制基準への適合性審査を申請する井上副社長
（平成25年12月27日）





提出した申請書は約4,000ページ（並べると約1メートル）にも及ぶ



東通原子力発電所の防潮堤が完成
（平成25年5月29日）

再生



豪雨被害を乗り越え運転を再開した豊実発電所
（平成25年9月18日）

力強く前進



「全店の集い」で海輪社長は社員へのメッセージとして「復旧期を脱し，復興に向け力強く前進する」と述べた
（平成26年3月11日）



久慈営業所

久慈営業所が管轄する地域は，三陸の豊かな自然や文化に溢れ，特に国内最北端の海で漁をする「北限の海女」の町として昨年テレビドラマの舞台となり，大きな話題となりました。
しかし明るい光がある一方，久慈市の南隣に位置する野田村など海沿いの地域は，津波による被害が大きく，3年が経過した現在も地域再建・復興への歩みが進められています。

まちの復興状況 野田村中心部

※震災直後の写真は野田村・久慈市様より提供いただいたものです

震災直後
野田村役場周辺（生涯学習センター）





現　在
図書館の本は大半が流されたが，全国からの支援により，平成24年6月に復活を果たした

震災直後
愛宕神社から眺める町の風景





現　在
鳥居の向こうに広がっていたかつての街並みは姿を消してしまった。現在は高台での造成工事，平地部でのかさ上げ工事のためのダンプカーが行き交っている



現地レポーター
お客さまセンターグループ
古舘　奨さん

まちの復興状況 久慈市内

現　在
全壊した地上設備は復旧。地下岩盤タンク方式の備蓄タンクに損傷はなく，原油の流出はなかった



震災直後
久慈国家石油備蓄基地



希望を乗せて 三陸鉄道全線運行再開

東日本大震災から3年，多くの人々の希望を乗せ三陸鉄道が全線で運行を再開します。
（南リアス線:4月5日，北リアス線:4月6日）
全線運行に合わせ，様々なイベント列車も運行する予定です。

震災直後
多くの枕木やレールが流されたが，運行再開を待ち望んでいた地域の方々の願いを受け，懸命な復旧作業が行われた





備蓄基地付近に開設されていたもぐらんぴあは津波により全壊。現在は久慈駅前に場所を移し「もぐらんぴあまちなか水族館」として市民の憩いの場となっている



現　在

レポーターのおすすめスポット

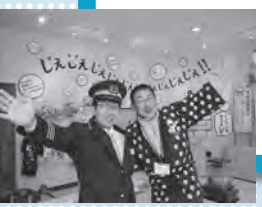
「小袖の海女」やテレビドラマで一躍有名となった小袖海岸は，断崖と赤銅色の岩礁の海岸です。「つりがね洞」や「かぶと岩」など奇岩も多く，見事な景色で訪れた人を楽しませてくれます。
震災の数ヶ月前に完成した『小袖海女センター』は，津波により全壊しましたが，2012年夏シーズンからプレハブ事務所を設置し，夏には素潜り実演も見ることができます。







市街地では撮影で使用したセットやジオラマが設置してある「あまちゃんハウス」や，シャッターに書かれたイラストなど，そこかしこで「あまちゃん」の世界に浸ることができます。日本での放送は終わってしまいましたが，現在海外での放送が行われるなど，国内外からのお客さまやリピーターの方に向け，久慈の魅力を発信しています。



あまちゃんハウスにて案内役の方と

営業所の今

東日本大震災の復興道路として国が整備する「三陸沿岸道路」の工事がスピードをあげて進められるようになり，営業所では，供給工事のための業務に追われています。35人という少数精鋭の「チーム久慈営業所」は，所長以下，日々お客さまと寄り添い，地域の復興を見つめています。







全線開通に向け急ピッチで工事が進められている三陸沿岸道路（久慈北道路）



東日本大震災から3年

社員が伝える地域の今

気仙沼営業所



気仙沼営業所が管轄する気仙沼市と南三陸町は中心市街地が海に近く，震災による津波で大きな被害を受けました。浸水地域は建築制限があるため，かさ上げ工事や住宅地の高台移転などの対象となっていますが，始まっているのは一部で本格的な復興はまだこれからです。

商店街が復興のシンボル

南三陸町志津川地区

震災で約8割が被災した南三陸町では，震災の翌月には「福興市」を開催するなど復興に向けいち早く取り組んでおり，震災から約1年後の平成24年2月には「南三陸さんさん商店街」をオープンし，観光客で賑っています。一方で，町役場などがあった中心地は津波で流失し，建築制限地域となっているため建物がありませんが，住宅地の高台移転に向けた取り組みが行われています。



さんさん商店街の周りには切り子とともに心が動かされるメッセージが添えられている（上），名物の「南三陸キラキラ丼」は時期によって旬の魚介類が盛り込まれ，目と舌を楽しませる（下）





高台にある志津川中学校前からは町の中心部が望め，復興はまだこれからであることを感じさせる（上）

復興工事の最前線

気仙沼市南気仙沼地区

気仙沼市は魚市場が再建し，水揚げ量も現在では震災前と比較し約8割まで回復しています。一方，被災者が入居する災害公営住宅は約2,000戸が計画されていますが平成25年10月に着工したばかりでこれからが本格的な建設工事となります。



現地レポーター

総務課　小岩広樹さん

浸水した地域のかさ上げ工事は南気仙沼地区が平成26年度末の完了予定から1年延期となるなど，遅れが出ています。また，この地区は現在かさ上げのために，電柱40本の移設および約1万メートルの電線の張り替え工事を実施しており，かさ上げ後は都市計画と合わせ，再度電柱の移設の計画をしています。



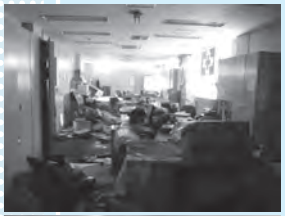


南気仙沼地区ではかさ上げ工事が行われている（左上），配電課の齋藤俊晃さんが案内した現場では配電線路の移設工事が行われていた（右上），安波山（あんぱさん）から市の中心部を望むと浸水地域とそうでない地域との差が一目でわかる（右）



営業所の今

震災時は浸水被害に遭い，地域の復旧作業と並行して営業所の復旧にも当たらなければなりませんでしたが全所で協力し，復旧を果たしました。震災以降は地域復興に伴う応需工事の増加など，繁忙感はありますが，使命感を持ち地域のためにベストを尽くしています。そのなかで，職場コミュニケーション活動を実施するなど，相互のコミュニケーションを大切にしています。





震災直後の営業所1階お客さまセンター（上）と現在の様子（下）





安波山での植樹活動の様子（左），国道45号線での植栽活動は企業グループで取り組み，植栽から撤去まで丁寧に行っている（上）

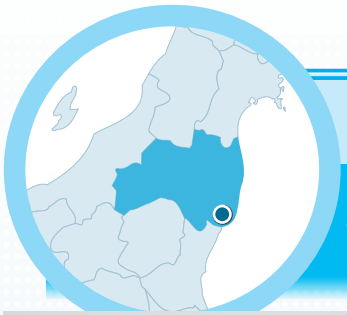
レポーターのおすすめスポット



満開の時期には徳仙丈山頂上から辺り一面に咲く見事なつつじを眺めることができます

※画像は気仙沼市観光協会様より提供いただいたものです

日本一のつつじの名所と呼び名の高い徳仙丈山（とくせんじょうさん）は，気仙沼市と旧本吉町の境にそびえる標高711mの山です。毎年5月中旬から6月上旬にかけ満開を迎えるつつじは，山全体を赤やオレンジ色に染め上げます。その数は，50万本ともいわれています。つつじの時期には是非登山をしてみてはいかがでしょうか。



いわき営業所

いわき営業所が管轄するいわき市は，双葉郡をはじめとする避難者を受け入れたこともあり，震災前と比べ人口が2万人以上増加し，住居物件の不足や避難者を含めた地域づくりをどのように進めていくかといった問題がある一方で，観光地では復興に向けた取り組みが進められています。

津波に耐えた弁天島 波立海岸





未だ立入りできない弁天島（上），防潮堤も未整備のまま（右）

いわき市北部に位置する波立海岸は，初日の出の名所として知られています。50メートル程沖にある「弁天島」の鳥居は，東日本大震災の津波に耐えましたが，島へ続く橋の欄干は津波で流失し，立ち入ることができません。また，海岸の防潮堤は震災から約3年が経過した今も整備が終わっていません。



現地レポーター

料金課　細金祐希さん（左）
お客さまセンター下村恭子さん（右）

震災直後



現　在





道の駅周辺は建て直された住宅もあるが，基礎だけ残されているところも多い



道の駅の周りは外溝工事が今も行われており，全てが復旧するにはもう少し時間を要する

被災者の拠り所となった道の駅 四倉地区

国道6号線に面した「道の駅よつくら港」は東日本大震災で津波の被害を受けましたが，直後から炊き出しなどを行い，被災者の救済に尽力しました。その後，仮オープンを経て平成24年8月にリニューアルしましたが，施設周辺の外構工事などは今も続けられています。

※震災直後の画像は「たかくら写真館」様より提供いただいたものです

復興の明るい兆し 薄磯地区

県内でも屈指の人気を誇る薄磯海水浴場がある同地区は，震災前は約266世帯761人が住んでいました。震災により建物の大部分は流失した上，海水浴場は海開きがされていません。そのような中，観光名所として有名な塩屋埼灯台の一般公開が2月22日に再開し，地元の明るい話題となっています。





震災以前は家屋が軒を並べていたが，今は見る影もない（上），塩屋埼灯台は約3年ぶりに一般公開が再開され，観光客で賑わいを見せている（右）

営業所の今

営業所の隣の敷地には仮設住宅が立ち並んでおり，楢葉町から避難してきた方々が住んでいます。震災以降，いわき市は人口が増加し，週末は交通渋滞が悩みの種となっています。業務については，災害公営住宅の新設などもあり，電気新増設申込件数が非常に増加しています。また，太陽光発電の系統連系申込が震災前に比べて大幅に増加しているため全所体制で対応しています。







営業所に隣接する仮設住宅。その奥には災害公営住宅の建設が進められている（右），営業所内の様子（配電計画課 司令室（左上），お客さまセンター（左下））

レポーターのおすすめスポット



「食べてよし，遊んでよし」とゆっくりと過ごせる いわき ら・ら・ミュウ

いわき ら・ら・ミュウは「いわきの見所」「遊び所」の情報をはじめ，値切りをしながら買い物を楽しめる「おさかなゾーン」などにエリアが分かれています。また，遊覧船のターミナルやアクアマリンふくしまが隣接しており，地元の方に「小名浜に来たら寄っていぎな!」と言われるおすすめのスポットです。



「おさかなゾーン」では新鮮な魚介類をはじめ乾物などが豊富に揃っている

～3年後の未来へ～

個人インタビュー

インタビュー1
これまでの3年について
- □震災を経験し，心に残っていること
- □震災後あなたを支えてきたもの
- □震災後一番大変だったこと
- □震災後新たにチャレンジしたこと
- □震災を通じて変わったこと

インタビュー2
これからの3年について
- □あなたの3年後は?



電力流通本部　電力システム部　中央給電指令所　鈴木　清則 さん

［震災当時所属］福島支店 電力流通本部（設備計画）



1 福島支店で勤務中大きな揺れに襲われ，昼夜交代で情報収集や連絡などに追われましたが，続々と伝わる被災状況や福島第一原子力発電所の情報に驚愕しきりでした。

2 震災や水害で停止した発電設備が復旧してきており，経済的・安定的な需給調整で極力燃料費節減に努めること。私事においては，居住地の行事に積極的に参加し，わが家の地域力を高めること。これらを日々実践していきます。

環境部（資源再利用）　伊藤　大志 さん

［震災当時所属］新仙台火力発電所（総務）





1 新仙台火力発電所で被災し，自然の力を前に無力さを感じつつも，「備えることの大切さ」を身にしみて感じました。

2 予測不可能な中にあっても，「今日の努力は明日への備え」を肝に銘じ，「明日への備え」を3年後も地道に積み上げていきたいです。



弘前営業所　お客さまセンター　中野　紗季 さん

［震災当時所属］資材部（資材契約）



1 日頃当たり前に使えるライフライン，豊富な物流が途絶えたことで，今までの生活がいかに恵まれていたのか気付かされました。

2 2歳になる息子の子育てに奮闘中です。3年後は，子育てに少し余裕が出ていることに期待します。

青森支店　電力流通本部　情報通信センター（通信ネットワーク）　及川　義宏 さん





1 北海道電力から融通を受けた衛星通信システムを，青森から女川原子力発電所地域総合事務所に運搬・設置し，電話回線構成したことです。

2 道の駅などのスタンプラリーものが好きなので，復興の歩みとともに，東北各地を旅したいです。

八戸火力発電所（技術） 生駒 万洋 機械主任





1 出張帰りに震災が起きたため，津波の被害を受けた発電所に戻れたのは3日後でした。構内の仲間が皆，泥にまみれながらも前向きに復旧作業を行っているのを見たとき胸が熱くなりました。

2 何事にも常に前向きに取り組む姿勢を持ち続けたいと思います。

北上技術センター 発変電課 佐々木 豊 さん



1 駄目でもともとの意気込みで専門部の選考試験を受けたところ，合格することができましたので，「入学したからには卒業するぞ!」と1年間チャレンジしました。

2 現在風邪気味ということもあり，何事も体調管理が第一であるということを実感しています。3年後は1日も体調不良にならないよう体を鍛えていきたいと思います。



盛岡営業所 お客さま提案課
［震災当時所属］宮古営業所 お客さまセンター
澤口 麻紀 さん





1 震災当時，宮古営業所で勤務していました。お客さま対応に携わり自分の無力さを痛感しましたが，頼もしい先輩方や応援隊の方々に励まされ，支えられ，乗り越えることができました。

2 3年後も震災の経験と感謝の気持ちを忘れず，人とのつながりを大切にしていきたいです。

宮古営業所 配電課
［震災当時所属］二戸営業所 総務課
七木田 靖稔 副長



1 震災発生当時，私は後方支援という形で復旧に携わりましたが，現場復旧に行けない歯がゆさを心の中で感じていました。

2 被災地の復興はまだこれからであり，被災者の方が1日でも早く普通の生活を取り戻せるよう願いながら業務を進めていきます。



営業所2階へ上る階段踊り場には，津波到達点がしるされています

盛岡営業所 配電計画課
［震災当時所属］一関営業所 配電課
刈屋 和晃 担当副長





1 震災後に赴任した大船渡営業所では，以前の町並みは消え，残ったのは瓦礫と泥と冠水する土地。今後どうすればと途方にくれましたが，やり場の無い怒りや悲しみを胸にしまった地域の方々の笑顔に救われました。

2 うまい魚を目当てにこの地を再訪し，笑顔の恩返しをしたいと思います。

～3年後の未来へ～ 個人インタビュー



能代営業所　お客さまセンター　志羽久　由佳 さん

［震災当時在住］宮城県仙台市（学生）



1 私は東京での就職活動中に被災し，仙台に帰れずにいました。友人たちの励ましや協力のおかげで，一週間かけて自宅に戻ることができ，人とのつながりのありがたみを痛感しました。

2 公私ともに出会った縁を大切にできる人間になりたいと思っています。3年後は入社5年で一区切り。自分のリフレッシュも兼ねて，仙台に住む両親を温泉旅行へ連れて行き親孝行したいと思います。

秋田技術センター　送電工事課　岩渕　努 さん

［震災当時所属］盛岡技術センター　送電技術課





1 電気をお客さまに「送る」ことを最優先に，現場の安全を考えながら岩手県釜石市の巡視（応援）にあたりました。

2 これまで以上に，安全で良質な電気を送り届けられるよう，エンジニアとしての自分を磨いていきます。



古川技術センター　発変電課　千田　昂輝 さん

［震災当時在住］岩手県奥州市（学生）



1 私は震災時，岩手支店で配属先通知を受けていました。地震後の復旧対応で忙しい中，非常食やホテルの手配までしていただいたことが今でも心に残っています。

2 職場の皆とのチームワークを大切にしながら，日々の業務に対して常に積極的に取り組み，自分自身の成長につなげていきたいと思います。

お客さま本部　営業部　コールセンター（電話業務）　國分　寛高 さん





1 福島から通勤しており，震災直後は帰れない日々が続き，自宅を家族任せになったことへの不安が一番心に残っています。

2 今まで以上に家族を大切にしながら，地元“福島”のために貢献していきたいです。



宮城支店　企画管理部門（企画・総務）　塚田　良子 主任



1 3月11日の夜，自治体連絡のために宮城支店で待機していた仲間と，雪降る仙台市街地を，懐中電灯を頼りに本店ビルまで移動したことです。

2「電気」は人の心を温かくし，生活を豊かにします。微力ですが職場の潤滑油として明るく元気に仕事に精を出す社員でありたいです。

塩釜営業所　配電計画課
［震災当時所属］石巻営業所　配電計画課
今出川　利雄　担当副長





1 復旧設備の用地交渉のため漁業関係者に声を掛けると，すぐ数人に取り囲まれ，非難を浴びるのかと焦りましたが，逆に10数本の電柱用地が一気に片付いたことです。

2 これからも常に誠実であり続け，多く出会いの中で信頼関係を築きながら復興を肌で感じていきたいです。

米沢営業所　お客さまセンター
［震災当時所属］米沢営業所　総務課
大沼　麻衣　さん



1 震災後，石巻での清掃ボランティアに参加した際，現地で瓦礫の山を目にしたことで大きな衝撃を受けました。

2 かねてより公私問わず，笑顔を大切にすることを心がけてきました。3年後も笑顔でいることで周囲に少しでも元気を与えられるような存在になりたいです。



酒田技術センター　制御所
本間　隆　さん



初出場でベスト16となった昨年夏の全国大会。後列左から2番目が本間さん



1 震災時は，酒田技術センターが東北北部に電気を送る起点となり，あらためて制御所の系統運用の重要性を痛感しました。

2 3年後，40代となる私。現在同様，地元のバレーボールスポーツ少年団で指導員として子どもたちと一緒に笑顔で汗を流していたいです。

総合研修センター（研修）
［震災当時所属］お客さま本部　営業部　契約センター
高橋　誠　さん



1 私は総合研修センターで研修中に被災しました。縁あって今その職場で働いています。

2 会社は待ったなしの変革のときです。当社が生き残るため，変革力を有し挑戦意欲溢れる人材育成を目指し，自分が手本となれるよう日々自己研鑽中です。



相双営業所　お客さまセンター
佐藤　千恵　さん





1 原発事故と津波被害の地域であるため，震災時は特に心身ともに辛かったのですが，職場の方々や検針員さん・集金員さんのおかげで乗り越えることが出来ました。

2 感謝の気持ちを忘れず，これからもこの地域の復興に携わっていきたいです。

～3年後の未来へ～ 個人インタビュー



福島技術センター　送電技術課　五十嵐　雅人 さん

1 原子力事故による20km圏内の送電線巡視および作業に，タイベックスーツ・防塵マスクを着用し保安確保に従事したことです。



2 「朝の来ない夜はない」の気持ちで，福島復興のため，笑顔を絶やさず職場の仲間と一緒に現場で送電線保守作業に従事しています。

会津若松支社　お客さま提案課　宇田　みちえ 担当副長

［震災当時所属］会津若松支社　お客さま提案課付　エルク出向



1 大阪にいた息子が，「俺やっぱり福島に帰る」と，県内に再就職しました。仕事では，当時エルクに出向しており，蓄暖・温水器の転倒対応をしながら企業グループの底力を目の当たりにしました。



2 趣味の朗読劇を継続し，お国ことばで語り部にもチャレンジ。故郷会津の良さを子どもたちに伝えていきたいと思います。
（追伸・・・んまいお酒ごっつぉすっから，会津さ来てくなんしょ。）



高田技術センター　送電課　高橋　貴博 さん

1 震災1年後の厳しい時期に専門部で学べたことと，暖かい支援をいただき卒業できたことに感謝しています。



2 専門部では，震災の爪跡を目の当たりにしました。趣味や旅行を通じて，家族とともに復興への道程を確認したいです。

東新潟火力発電所（技術）　松村　聖一 さん



1 震災後，長期計画停止から最短工期で点検を実施し運転を再開した港1号機は，3年間安定運転を継続中です。



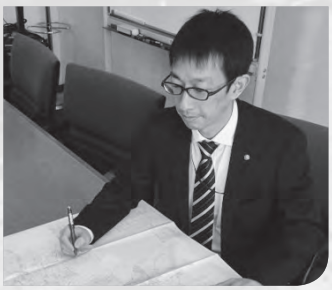
2 3年後，同年代の私と港1号機は40代となり，お互いをメンテナンスしながらフル稼働していることを想像します。



東京支社　総務課　山岸　正樹 主任

［震災当時所属］広報・地域交流部（エネルギー広報・地域交流）

1 震災当日，出張で東京を訪れていました。交通機関や通信手段が途絶え露頭に迷っていたところ，何とか東京支社にたどり着き，食事提供などの温かい支援を受けたことが忘れられません。



2 現在，総務担当として東京支社に勤務しています。当時，激務の中で対応いただいた支社の皆さんにあらためて感謝するとともに，今後は災害時における備えや出張者などに対する支援の強化に取り組むことで恩返しできればと思います。

東日本大震災復興支援プロジェクト「ともに前へ」の3年

震災以降，当社がおかれた経営環境の厳しさに変わりありません。しかし，「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という創業以来の基本的な考えは何ら変わるものではありません。当社は東北に根差し続ける証として東日本大震災復興支援プロジェクトを立ち上げ，地域の方々とともに復興に向かって歩み続けてきました。「ともに前へ」を合言葉に。

東北電力グリーンプラザを活用した情報発信

被災地の復興を応援するため『復興支援特別展』を開催

復興支援特別展では，被災地で復興に携わる方々の様々な活動を紹介するとともに，被災地で制作している復興支援グッズの販売，復興写真展などの応援イベントを行ってきました。平成23年10月の第1回からこれまでに4回開催し，合計で5万人以上の方々の来場がありました。

『復興情報発信コーナー』を設置

平成24年11月からは，被災地で復興に向けて取り組む地元の姿や復活を目指す観光地や物産品など様々な魅力をパネル展示や映像などを使って紹介しています。



平成24年3月「ともに前へ『復興の花を咲かせよう』」開催の様子

『観光で東北の復興を応援しよう』を展開

H.A.N.D.S. の「お知らせ」にて，東北観光推進機構などと連携し観光情報や復興支援に関する情報を適宜発信しています。また，東北地域内外へ東北の魅力を発信するため，電子メールにリンクで貼り付け可能な「東北の四季をテーマにした電子絵はがき」を作成し，社員の皆さんに活用を呼びかけてきました。



蔵王スキー場と樹氷（山形）の電子絵はがき

当社ホームページ内に『東日本大震災復興情報レポート』のサイトを開設



復興支援の輪を広げるため，新潟県を含む東北各地の震災復興の活動を取材し，ホームページより「東日本大震災復興情報レポート」にして情報発信しています。復興情報レポートでは，日本海側から被災地に向け走り続けるボランティアバス，被災地の子どもたちへの学習支援，被災地域で新たな産業を起こす団体，起業を支援するNPOなど，今年度末までに約80件の話題を紹介します。

当社ホームページ
「東日本大震災復興情報レポート」のポータルサイト

『まちづくり元気塾®』を復興支援版として再開

震災前に実施していた地域づくり支援制度「まちづくり元気塾®」のノウハウを活用し，平成24年度下期から復興支援版として活動を再開させました。これまでに，岩手県釜石市と陸前高田市，宮城県登米市と南三陸町の4地域で復興に取り組む団体に対し，それぞれの課題に合わせ専門家を派遣してきました。復興支援版の元気塾では，被災地振興に取り組む若年層の育成策検討，地元食材を生かした復興商品メニューの開発，地域復興の拠点づくりなどの支援を行っています。



ワークショップなどを通じて復興につながる課題を洗い出し，地元団体の活動をサポートする復興支援版の元気塾

『震災復興学習バス』の実施

当社，企業グループ，東北電力総連加盟組合の社員・組合員とその家族を対象に，「震災復興学習バス」を実施しました。参加者が被災3県の沿岸地域に足を運び，現状を自分たちの目で見て現地の方々からお話を聞き，直接肌で感じた被災地の状況を各々の思いとともに職場や地域の方々に広めることを目的としたものです。平成25年3月から計10回実施し，約450人の方々の参加がありました。



語り部の方より震災当時の様子を伺う参加者たち

近況報告 ～復興の現場から～

東日本大震災発生から３年が経過し，被災地では仮設住宅から復興公営住宅や集団移転先への引越しなども始まっています。復旧・復興の原動力となったボランティアや復興のシンボルとして注目された復興商店街の現状について，地元で活動に携わっている方々に現在の様子をお伺いしました。

被災地ボランティアの今

―震災から3年が経過しますが，被災地でのボランティアのニーズはありますか?

震災当初のように泥かきやガレキの片付けなど大勢の人手が必要なボランティアのニーズは少なくなり，現在は，復興イベントや地元のお祭り，仮設住宅の集会所でのイベントの手伝いなどの要望が増えてきました。手芸講師やカウンセラーなどスキルが必要なものもあり，ニーズは多様化かつ専門化しています。しかし，ボンティアの数はだんだん減ってきており，ボランティアを募集しても参加者が集まらず企画が中止になる場合もあるようです。それだけ被災地への関心が薄くなってきているのだと感じています。

―私たちにできる支援はありますか?

東北電力の皆さんからは，仮設住宅の集会所などで子どもたち向けに電気実験の「出前講座」を実施したり，入居している方々向けに電気の上手な使い方などの講習会を開いていただくと交流の機会にもなるため喜んでいただけると思います。

＊NPO法人ボランティアインフォ・・・東日本大震災後に「ボランティアとボランティアを求める人をつなぐ」というミッションのもとにWeb上でボランティアの情報を発信している



NPO法人ボランティアインフォ
代表 北村（きたむら） 孝之（たかゆき）さん
田屋（たや） 由佳利（ゆかり）さん

ホームページ
http://volunteerinfo.jp/

復興商店街のその後



東北ろっけんパーク
商店街連動・復興グッズ監修
齋藤（さいとう） 由布子（ゆうこ）さん

ホームページ
http://tohoku-rockenpark.com/

―各地の復興商店街は当初と比べてどんな変化がありますか?

復興商店街は，当初，多くの方々で賑わっていましたが，徐々に訪問する方が減ってきているところが多いようです。そのため商店街では，「復興」のキーワードに頼らず集客できるように，新たな付加価値づくりを模索しており，ご当地グルメを考案したり，たくさんのお客さまが集まるようイベントを企画したり，興味を持って気軽に立ち寄っていただけるような工夫を凝らしています。

―私たちにできる支援はありますか?

ぜひ，復興商店街に足を運んでいただき，お店の方たちと会話をしながら買い物や食事を楽しんでください。そうすることで，お店の方たちとの会話の中から，地元商業の復興に際しての苦労やニーズなどが見えてくると思います。

復興商店街は，あくまで仮設で設置期間が限られています。そのため，仮設店舗の営業と今後の再建についても考えなければならないのが今の課題です。情報発信などの広報の手伝いやイベントへの出展，販路開拓の支援など，一歩踏み込んだビジネス支援をしていただくことが復興商店街の方たちにとって力になると思います。

＊東北ろっけんパーク・・・東北の観光や産業の復興を支援するために仙台市のクリスロード商店街につくられたPR施設。復興商店街の紹介や復興支援グッズを販売する復興ギャラリーなどがあります

時間とともに被災地の状況は刻々と変わり，復興支援のあり方も変化してきました。東日本大震災復興支援プロジェクト「ともに前へ」の展開を通じて様々な支援に努めてきましたが，これからも引き続き私たちにできる復興支援を考え取り組んでいく必要があります。広報・地域交流部では，被災地の声に耳を傾け，各地の復興活動や復興支援イベントなど様々な情報を H.A.N.D.S. の「お知らせ」や「東日本大震災復興情報レポート」を通じて今後も情報発信していきます。ぜひ皆さん一人一人がこれからの復興支援について何ができるか継続して考えるキッカケにしていただければ幸いです。

当社ホームページ「東日本大震災復興情報レポート」にアクセスできる QR コードを作成しました。名刺などを作成する際に活用いただき社外の方々への復興支援情報の発信をお願いします（詳細は H.A.N.D.S.「お知らせ」をご覧ください）。

地域のお客さまから見た東北電力の今

―「東北電力の企業活動およびCSRの取り組みに関するアンケート調査」結果から―

当社では，管内のお客さまが抱く当社への好感度や事業活動の評価，エネルギー問題・原子力発電に関する意識などへの経年変化およびCSR活動への取り組みに対する評価を把握し，今後の事業活動に反映させていくことを目的として「東北電力の企業活動およびCSRの取り組みに関するアンケート調査」を実施しています。

東日本大震災後初めて行った2012年9月の前回調査では，当社好感度が過去最低を記録するなど，当社を取り巻く厳しい環境が数字においても示されました。その後，電気料金の値上げ改定を経て実施した今回の調査は，前回よりもさらに厳しい結果となっています。

当社が置かれている状況を今一度客観的に見つめ，地域からの信頼を回復し，選択される電力会社となるため，本特集では，調査結果の要点から，地域のお客さまの目に映る現在の東北電力の姿をお伝えします。

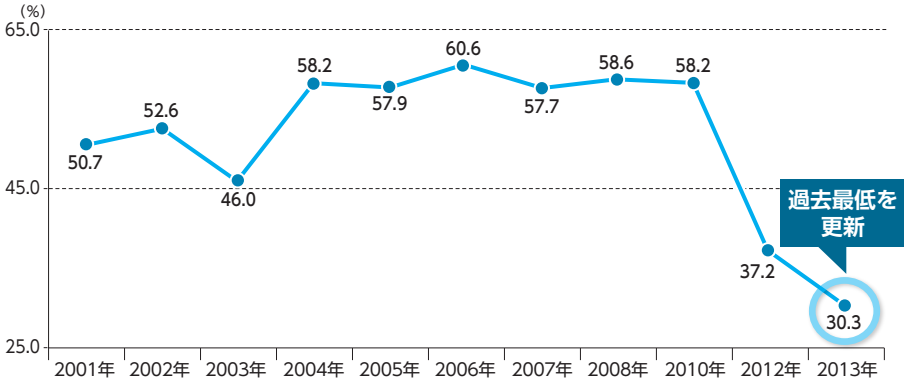
【実施概要】

- **実施期間**：平成25年12月2～14日
- **調査地域**：当社供給エリア（東北6県および新潟県）
- **調査対象**：20～69歳の男女個人
- **有効回答数**：2,681人
- **調査方法**：インターネットWeb調査

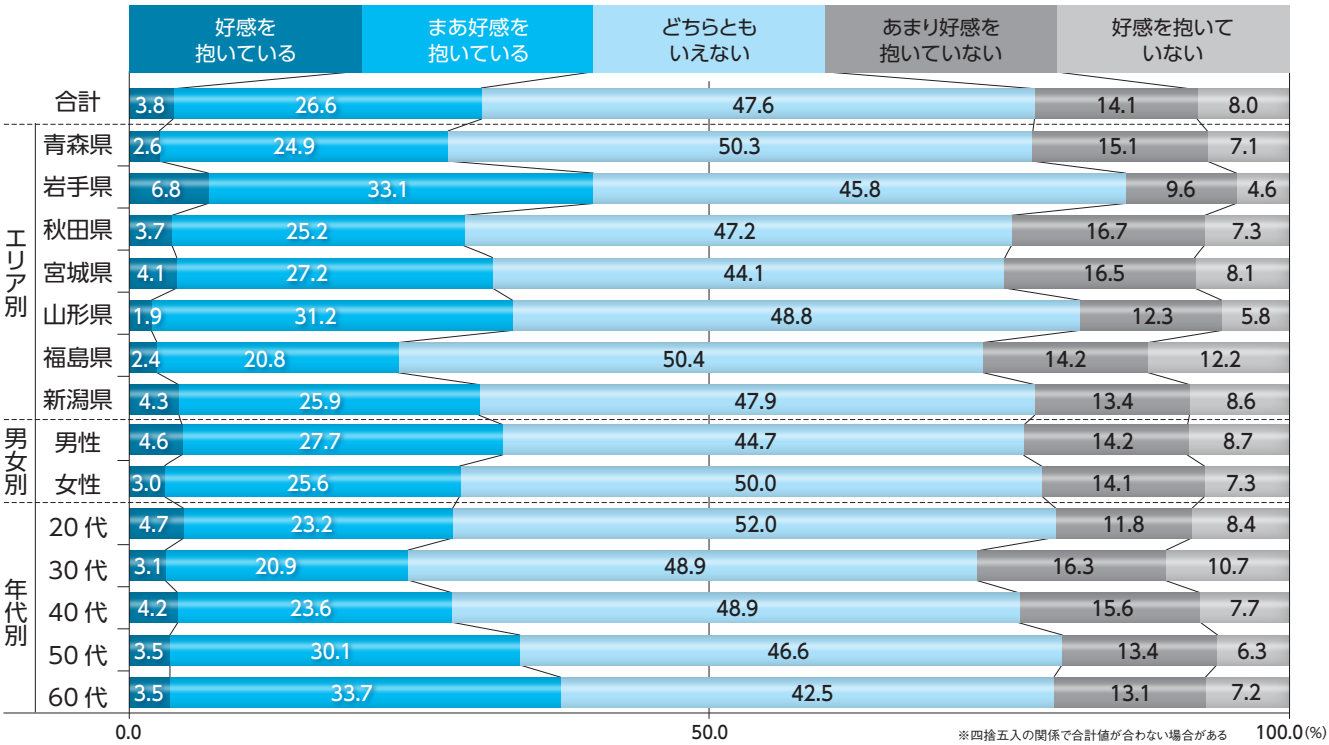
❶ 企業イメージ（好感度）評価

- 東北電力に対するイメージ（好感度）は，**「好感を抱いている」「まあ好感を抱いている」を合わせて30.3%**で，前回よりも6.9%下落し，**過去最低を更新**しました
- エリア別では，岩手県が最も好感度が高いもののスコアは39.9%にとどまります。一方，最も好感度が低かったのは，福島県で23.2%でした
- 年代別では，年代が高くなるにつれて好感度は上昇しますが，いずれも40%に達していません

■企業イメージ（好感度）評価　時系列推移



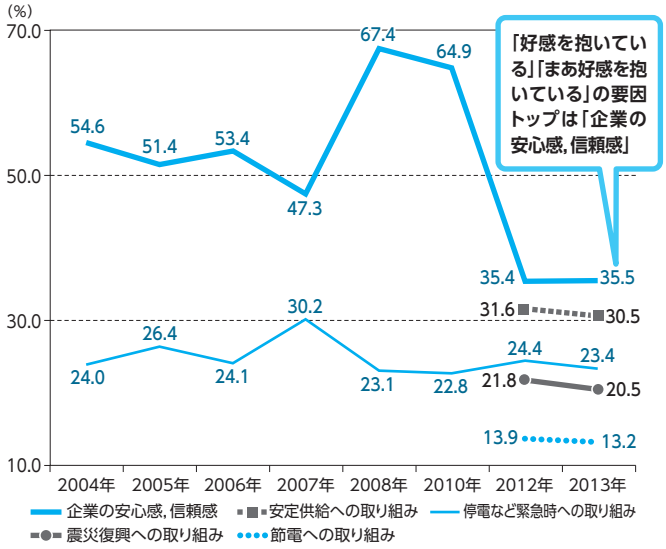
■企業イメージ（好感度）評価 属性別



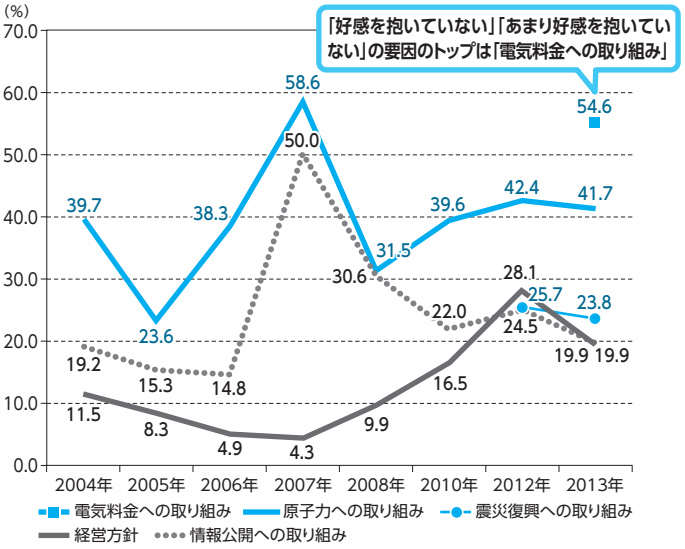
※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある

●企業イメージ(好感度)で「好感を抱いている」「まあ好感を抱いている」と回答した方の要因のトップは「企業の安心感,信頼感」の35.5%で,以下,「安定供給への取り組み」が30.5%,「停電など緊急時への取り組み」が23.4%,「震災復興への取り組み」が20.5%,「節電への取り組み」が13.2%と続いています
●企業イメージ(好感度)で「好感を抱いていない」「あまり好感を抱いていない」と回答した方の要因の トップは「電気料金への取り組み」の54.6%で,以下,「原子力への取り組み」が41.7%,「震災復興への取り組み」が23.8%,「経営方針」および「情報公開への取り組み」が19.9%と続きます
●特徴的なのは「震災復興への取り組み」で,「好感を抱いている」「まあ好感を抱いている」と回答した方の要因の4番目,「好感を抱いていない」「あまり好感を抱いていない」と回答した方の要因の3番目に位置付けられています

■企業イメージ(好感度)で「好感を抱いている」「まあ好感を抱いている」と回答した方の要因(上位5項目)時系列

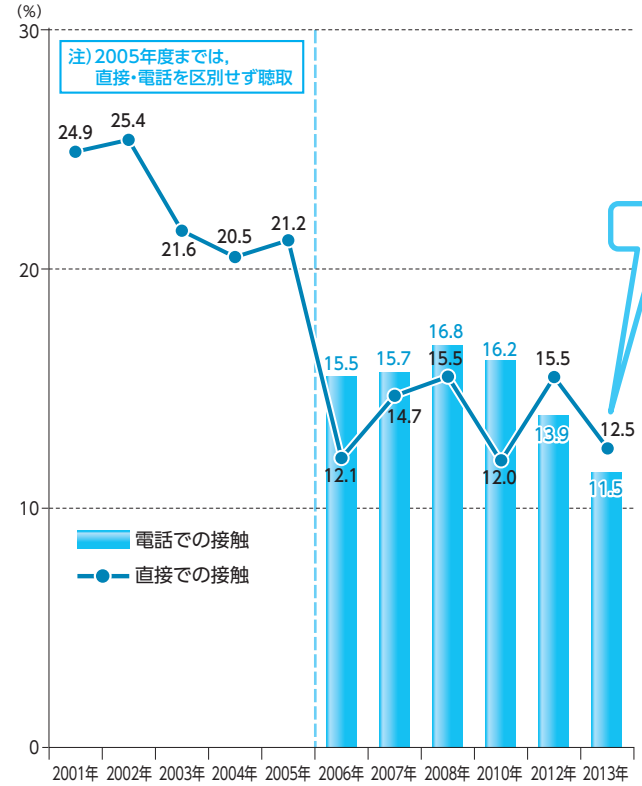


■企業イメージ(好感度)で「好感を抱いていない」「あまり好感を抱いていない」と回答した方の要因(上位5項目)時系列

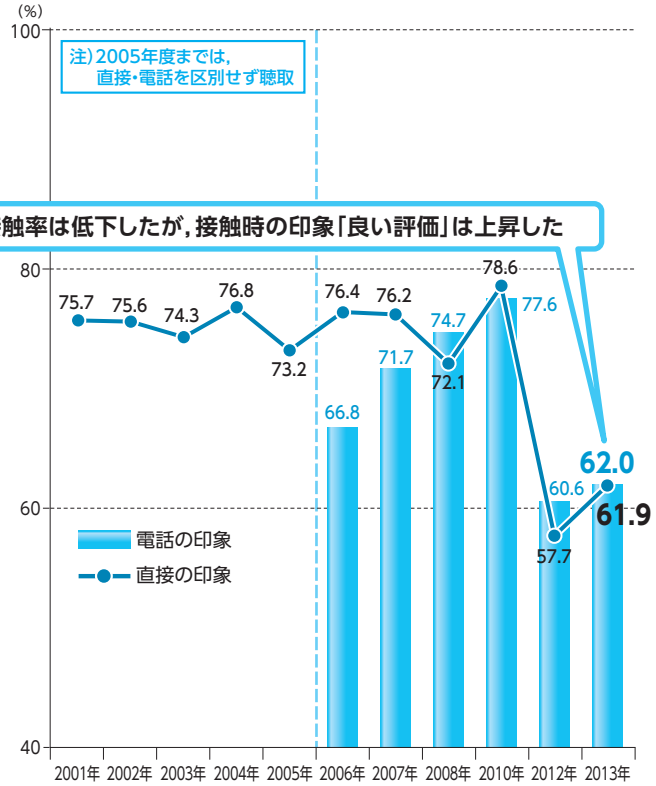


●地域のお客さまと,当社社員との接触経験率は,電話の接触が11.5%,直接お会いした場合の接触が12.5%で,ともに前回調査を下回りました
●一方で,**接触時の印象「良い評価」は,電話で接触した人62.0%,直接接触した人61.9%と,ともに前回よりも評価が上昇**しています

■社員との接触状況(電話/直接)



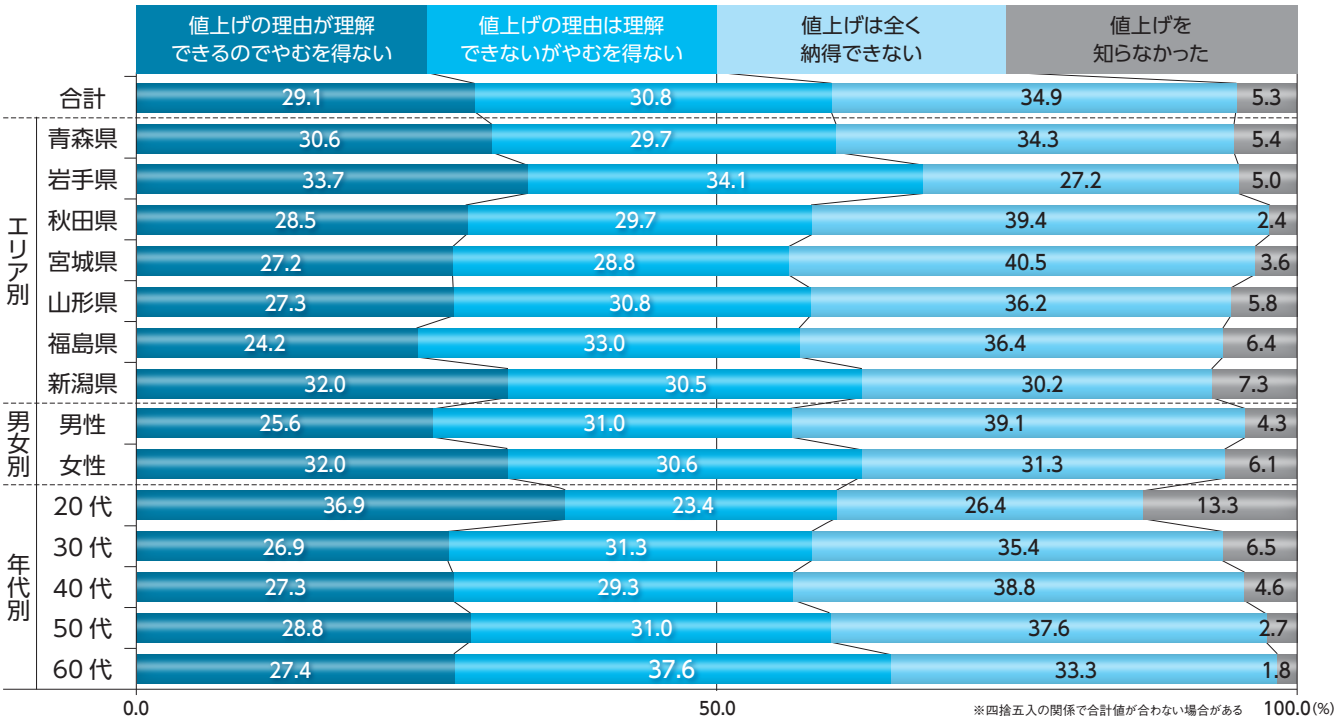
■接触時の印象「良い評価」合計(電話/直接)



❷電気料金値上げに関する評価

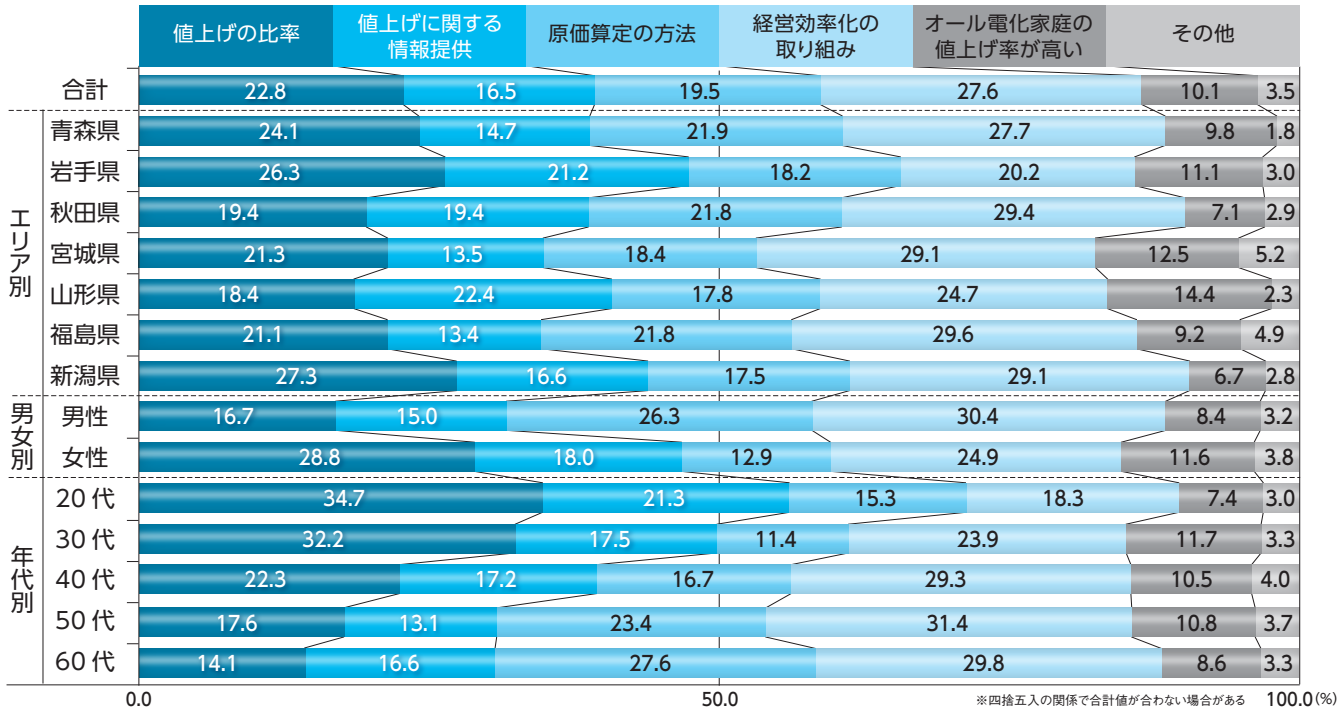
●電気料金値上げに対する評価は,「やむを得ない」との受け止めの合計が59.9%で,そのうち「理由が理解できる」は29.1%でした。一方,「理解できない・納得できない」の合計は65.7%で,そのうち「全く納得できない」は34.9%でした。また,値上げを「知らなかった」は5.3%でした
●エリア別で見ると,「やむを得ない」の数値が最も高かったのは岩手県の67.8%で,最も低かったのは宮城県の56.0%でした
●年代別でみると,「やむを得ない」との数値が最も高かったのは60代の65.0%で,最も低かったのは40代の56.6%でした

■電気料金値上げに対する評価　属性別



●電気料金値上げに対する不満内容としては,「経営効率化の取り組み」が27.6%で最も高く,以下「値上げの比率」が22.8%,「原価算定の方法」が19.5%,「値上げに関する情報提供」が16.5%と続きます
●男女別に見ると,男性は「原価算定の方法」「経営効率化の取り組み」といった値上げの理由に対して不満を抱いているのに対し,女性は「値上げの比率」といった料金値上げそのものへの不満を抱いています
●20～30代は「値上げの比率」に対しての不満が高く,40～60代は「経営効率化の取り組み」に対する不満が高くなりました

■電気料金値上げに対する不満内容



❸原子力発電に関する評価

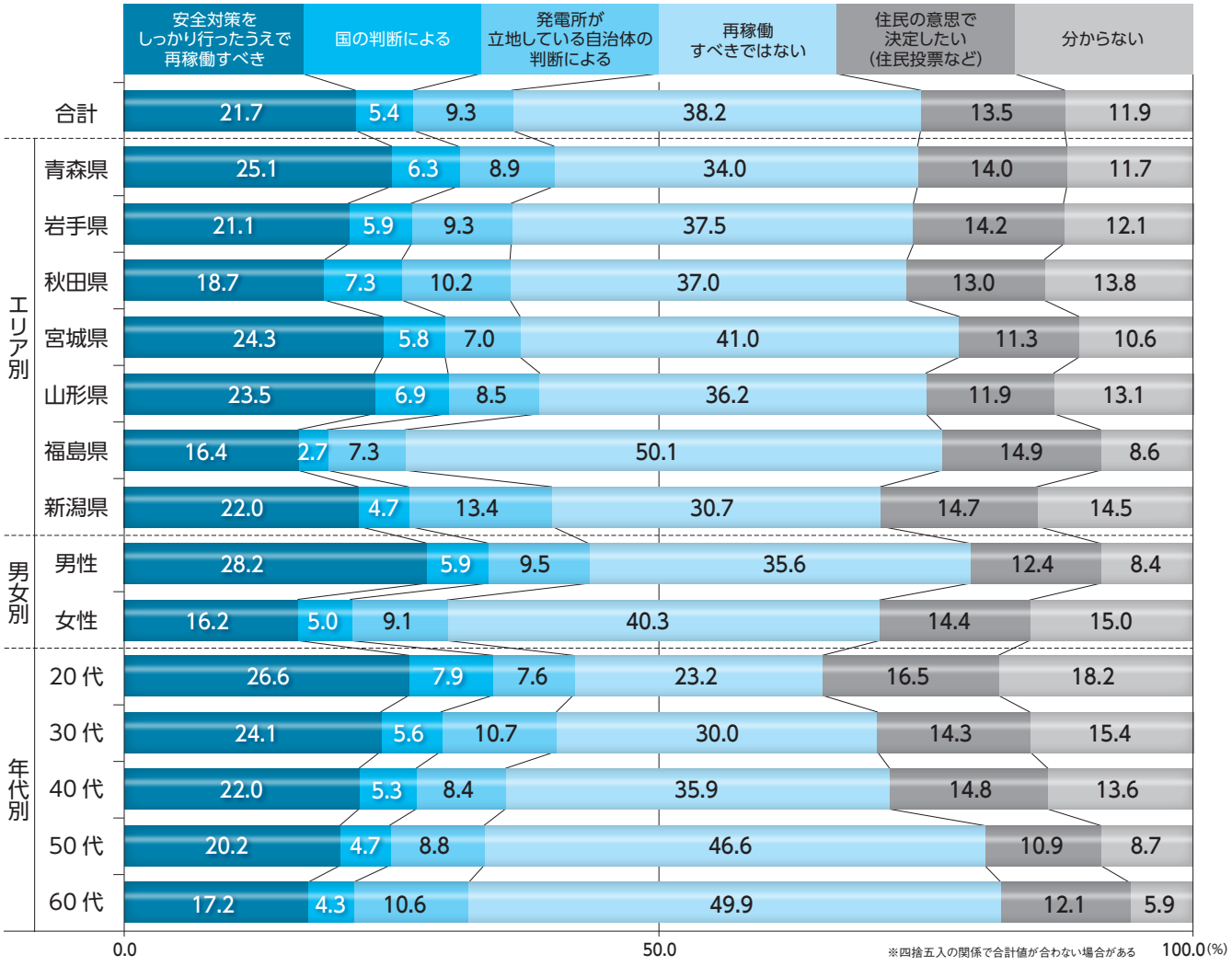
【再稼働】

●再稼働に対する意見の中で最も多いのは「再稼働すべきではない」の38.2%で,「安全対策をしっかり行ったうえで再稼働すべき」の21.7%を上回りました

●年代別で見ると,年代が下がるにつれ「安全対策をしっかり行ったうえで再稼働すべき」との意見割合が高まる一方,年代が上がるにつれ「再稼動すべきではない」という意見の割合が高まっています

●今回の調査で新規に設定した「住民の意思で決定したい(住民投票など)」は13.5%のスコアになりました

■東北電力の原子力発電所再稼働について



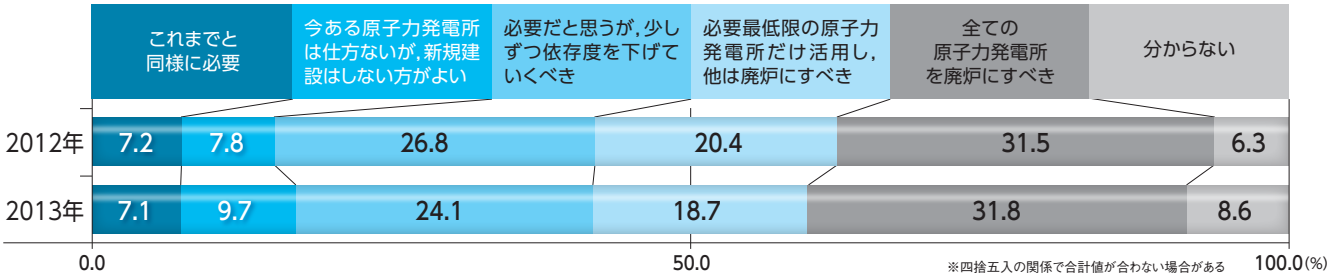
【必要性】

●原子力の必要性について今後のあり方をみると,廃炉を念頭においた意見の合計は50.5%で,「全ての原子力発電所を廃炉にすべき」が31.8%,「必要最低限の原子力発電所だけ活用し,他は廃炉にすべき」が18.7%でした

●一方,既存の原子力発電所に比較的肯定的な意見の合計は40.9%で,「これまでと同様に必要」が7.1%,「今ある原子力発電所は仕方ないが,新規建設はしない方がよい」が9.7%,「必要だと思うが,少しずつ依存度を下げていくべき」が24.1%となりました

●前回調査時と比較すると,「今ある原子力発電所は仕方ないが,新規建設はしない方がよい」「分からない」が約2%増えているのに対し,「必要だと思うが,少しずつ依存度を下げていくべき」「必要最低限の原子力発電所だけ活用し,他は廃炉にすべき」が約2%減少しています

■原子力発電の必要性



❹電力会社を選択する基準

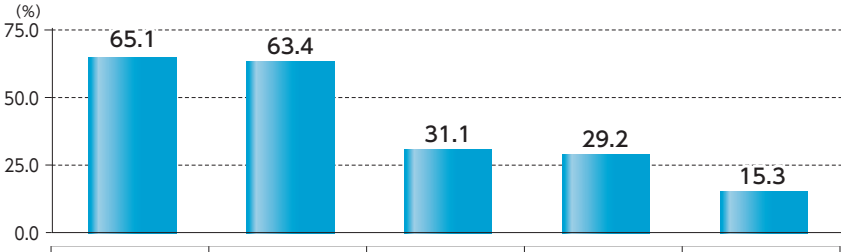
●電力自由化を前提とした電力会社の選択基準のトップは「電気料金が安いこと」の65.1%で，以下，「電力の供給が安定していること」が63.4%，「選択できる料金メニューが豊富であること」が31.1%，「停電時の対応などメンテナンスがしっかりしていること」が29.2%と続きました

●「電気料金が安いこと」は，エリア別・男女別・年代別全てで60%を越える評価となっています

●「電力の供給が安定していること」は，エリア別・男女別では全て60%を越える評価となっているものの，年代別ではバラつきがあり，20代の49.3%が最も低く，50代の71.7%が最も高いなど40～60代の評価が高いという傾向があります

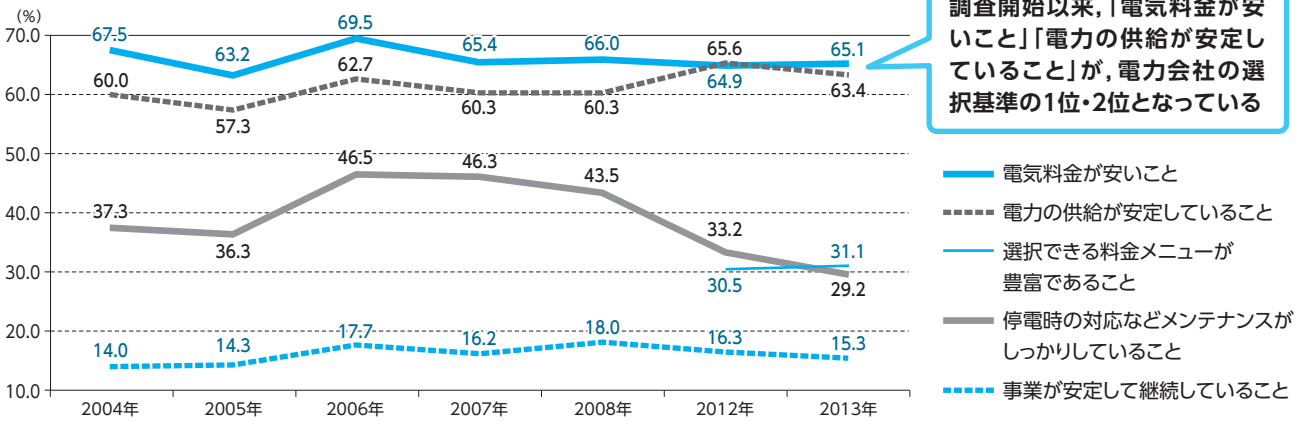
●前回調査と比較すると，「電気料金が安いこと」が「電力の供給が安定していること」を逆転し，「選択できる料金メニューが豊富であること」が，「停電時の対応などメンテナンスがしっかりしていること」を逆転しました

■電力会社の選択基準（上位5項目）



		電気料金が安いこと	電力の供給が安定していること	選択できる料金メニューが豊富であること	停電時の対応などメンテナンスがしっかりしていること	事業が安定して継続していること
	合計	65.1	63.4	31.1	29.2	15.3
エリア別	青森県	66.6	66.9	36.6	32.0	12.6
	岩手県	64.1	61.6	33.4	31.0	15.8
	秋田県	67.9	66.3	30.1	31.7	15.9
	宮城県	65.8	61.5	30.2	27.2	16.4
	山形県	66.5	61.2	28.8	29.2	15.8
	福島県	65.0	61.9	30.6	27.6	13.9
	新潟県	61.8	65.0	28.9	28.3	16.0
男女別	男性	66.3	63.2	30.5	23.3	14.3
	女性	64.0	63.5	31.5	34.2	16.1
年代別	20代	63.1	49.3	32.0	26.4	8.9
	30代	63.5	56.3	35.0	23.5	14.6
	40代	66.5	65.4	31.1	29.9	15.9
	50代	67.3	71.7	31.1	33.2	15.0
	60代	63.8	68.9	26.0	31.3	20.5

■電力会社の選択基準（上位5項目）時系列



調査開始以来，「電気料金が安いこと」「電力の供給が安定していること」が，電力会社の選択基準の1位・2位となっている

まとめ

今回の調査は，昨年9月の電気料金改定後に実施したこともあり，前回に引き続き管内のお客さまからの評価は厳しいものとなりました。しかしながら，社員と地域のお客さまとの接触時の印象「良い評価」が電話・直接どちらの接触でも上昇するなど，我々のお客さまへの対応が評価された結果もありました。また，誌面の中ではお伝えできませんでしたが，地域協調活動やエネルギー・コミュニケーション活動は，認知度が低いものの，認知していただくと好感度に直結するというデータもあります。

電力の安定供給はもちろん，地域の一員としての活動やお客さまの立場に立った丁寧な対応など，当たり前のことを積み重ね続けていくことは，地域からの信頼獲得のために不可欠であるとデータは物語っています。

※調査結果のサマリー版をH.A.N.D.S.のお知らせに掲載しておりますので，ご参照ください。

「原子力のあり方に関する有識者会議」の第4回会合を開催

3月4日、本店で「原子力のあり方に関する有識者会議」の第4回会合が開催されました。

本会議は、これからの原子力のあり方という大きな課題を見据え、原子力運営の信頼回復に向けて、さらに安全性の高い発電所の実現や地域の皆さまとのコミュニケーションのあり方、透明性の高い企業風土の確立などについて、社外有識者の方々から幅広くご意見をいただくことを目的として平成23年10月に設置したものです。

開会に当たり海輪社長は「これまでの会議でいただいたご意見は、その後の当社の安全対策の詳細検討や風通しの良い職場作りなどの参考とさせていただいた。今回も引き続き忌憚のないご意見をお願いしたい」とあいさつしました。





会議冒頭であいさつをする海輪社長（上），委員からそれぞれの知見に基づくご意見をいただいた（下）

会議では、当社より「東通原子力発電所の敷地内断層に係る追加地質調査報告書の概要」「女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みと2号機の新規制基準への適合性審査申請の概要」「地域への情報提供・コミュニケーション活動」について説明し、ご意見をいただきました。

委員からは、「さらなる安全性向上の取り組みについて、『原子力規制委員会が求める世界最高水準』といったときの値に『幅』があり『基準で求められるレベルはここまでだが、我々はさらに裕度を加えてこのレベルまで対応した』という説明が出来るのであれば、より一層の『安心』につながるのではないか」、「原子力災害に対する緊急時防護措置を準備する区域が設定され、コミュニケーションを図るべきエリアが広域化されたことを踏まえると、『フェイス・トゥ・フェイス』による活動だけでは限界があり、メディアを介した情報提供なども必要ではないか。ただし『地域の方々がこの情報を見たときに分かっていただけるか』という視点を忘れないでほしい」などのご意見をいただきました。

第4回「原子力のあり方に関する有識者会議」出席委員（五十音順）

浅利（あさり） 靖（やすし） 氏〈北里大学医学部救命救急医学教授〉
新野（あらの） 良子（よしこ） 氏〈㈱新野屋専務取締役〉
※北村（きたむら） 正晴（まさはる） 氏〈東北大学名誉教授〉
高橋（たかはし） 正典（まさのり） 氏〈㈱高政代表取締役社長/女川町商工会会長〉
中村（なかむら） 葉志生（はしお） 氏〈㈱ハリーアンドカンパニー代表取締役〉
橋爪（はしづめ） 秀利（ひでとし） 氏〈東北大学大学院工学研究科教授〉
横山（よこやま） 速一（はやいち） 氏〈㈱電力中央研究所常務理事〉
※は座長

八戸火力発電所5号機 コンバインドサイクル方式による発電を開始

3月1日、八戸火力発電所5号機は、コンバインドサイクル方式（出力／39・4万kW、燃料／軽油）での試運転を開始しました。

同5号機は、東日本大震災により低下した供給力を確保するための緊急設置電源として平成24年7月に営業運転を開始しました。その後、環境負荷低減などの観点から恒久的に使用できる電源とするため、コンバインドサイクル化工事を進めてきたものです。

本工事は、震災から3年以内の発電開始を目標にしていたため、通常の発電所建設工事に比べ短期間での施工となりましたが、安全を最優先にし、細かな工程調整や夜間・休日作業を実施するなどの工夫をするとともに、関係自治体および発電所周辺地域の方々のご理解とご協力をいただいた上で工事を進めたことから、今回の発電開始に至ったものです。

また、本工事と並行して平成25年10月より、さらなる環境負荷低減および経済性向上を図るため、現在の軽油に加え天然ガスによる発電も可能とする燃料転換工事（出力／39・4万kW→41・6万kW、熱効率／約48％→55％、工事完了／平成27年7月予定）を実施しています。

今後は、試運転による各種試験を着実に進め、平成26年8月の営業運転開始を目指していきます。





発電開始操作を行う樋口火力部長（上・中央），工事関係者一同で初並列を祝った（下）

カタールガス3プロジェクト LNG売買契約締結の記念式典が執り行われる

2月10日、カタールの首都ドーハでカタールガス3プロジェクト（以下、カタールガス3）からのLNG購入に関する売買契約締結の記念式典が行われ、当社から長谷川常務が出席しました。

当社は、カタールガス3について2月4日付で、カタール液化ガス3株式会社（以下、カタールガス社）と売買契約を締結しました。本売買契約締結を記念した式典がドーハで執り行われたものです。



記念式典の様子（右からカリッド社長，長谷川常務）

式典の冒頭、カタールガス社のカリッド社長からあいさつがあり、当社との新たな長期売買契約締結に対する感謝の言葉とともに、1999年に開始した既存の長期売買契約を通じた提携関係に加えて、今回の契約締結によって、より強固で長期的な関係が構築されたことに歓迎の意を表しました。

これに対し、長谷川常務は東日本大震災以降、当社のLNG需要が増加したことを受け、カタールガス社が当社に追加供給していただいていることへの感謝の意を表しました。

その後、歓談が行われ、終始和やかな雰囲気の中、記念式典が終了しました。

今回締結した売買契約は、LNG調達のさらなる安定性、柔軟性の向上に寄与することが期待されます。

■LNG売買契約の概要

期　間	2016年より15年間	数　量	2016～2018年：6～9万トン/年 2019～2030年：18万トン/年

平成25年度「革新リーダー研修」レポート発表会を開催

2月6日、本店において平成25年度「革新リーダー研修」レポート発表会を開催しました。

「革新リーダー研修」は、電力自由化の急速な進展や競争が激化する経営環境への対応能力を有したリーダーの育成を目的として、平成15年度から実施しています。研修は「部門の中核者としての役割発揮に向けて必要な意識の醸成と能力の強化」などを目的として、各部門の一般管理職および専門指導職21名が、10月から2月にかけて計5回（延べ12日間）にわたり、研修などを受講しました。

発表会では、受講者が4グループに分かれ、「東北電力の変革ビジョンと戦略課題」を大テーマとして、本研修を通じて習得した知識やスキルを生かしながら、ヒアリングやフィールド調査を行い作成したレポートを発表しました。発表テーマは、今後当社が直面する課題を乗り越えるために検討したものです。

発表後の質疑応答では、聴講者から発表内容に踏み込んだ鋭い質問や意見があり、発表者は真剣な表情で質問に答えていました。





レポート発表（左）の後，国分総合研修センター所長は講評で「この成果を実践するよう継続した取り組みを期待する」と述べた（右）

■発表したチーム名および発表テーマ

チーム名	発表テーマ
Power of the network	発電事業による農業支援で「東北電力」ブランドの強化と浸透
DAIGINJYO	地域を地活きに!!全面自由化を勝ち抜く地域支援活動の実践
ZUNDA	小売全面自由化を踏まえた関東圏での事業展開
チームG7	東北地域No.1のエネルギー企業であり続けるために ～仙台圏におけるガス販売事業の展開～

平成26年3月 臨時異動を発令

当社は、3月1日付で臨時人事異動を発令しました。

今回は、新規役付登用31人を含めた管理職異動が219人、一般職異動が315人、合わせて534人の異動を行いました。

なお、今回の臨時異動の特徴は次のとおりです。

■臨時異動の特徴

①本店と第一線事業所との積極的な人事交流

②組織整備への対応

■組織整備

①送変電建設センター山形工事所の設置

②低圧太陽光連系受付業務集中化

■異動発令数

		発令数
役付	特別管理職	80名
	一般管理職・専門指導職	139名
	計	219名
一般職		315名
合　計		534名

送変電建設センター山形工事所で開所安全祈願祭が執り行われる

3月4日、送変電建設センター山形工事所で開所安全祈願祭が執り行われました。

同工事所は、南山形幹線（経路／朝日幹線～西山形変電所、亘長／22・5キロメートル、電圧／275kV（設計電圧500kV））の建設を円滑に行うため、送変電建設センターの内部組織として3月1日に発足し、山形市内に事務所を設置しました。

南山形幹線は、山形県において平成11年に運用開始した山形幹線以来となる超高圧送電線路で、山形県および秋田県南部沿岸地域への電力安定供給や東日本大震災を踏まえた自然災害による基幹系統変電所全停止への対応力強化（東北系統の南北分断の回避）などを目的に、平成27年4月に着工、平成30年6月の運用開始を目指しており、平成26年度には伐採作業や仮設道路造成などの準備工事を実施します。

開所安全祈願祭には、庄司山形支店長をはじめ、遠藤送変電建設センター所長、井川山形工事所長などが出席し工事期間中の無事故・無災害を祈念しました。

開所式の最後に、井川山形工事所長は「我々所員一同は、平成30年6月の運用開始を目指して持てる力を出し尽くし、業務を推進していく。また、人間尊重の基本理念の下、安全を最優先に一人のけが人も出さない決意であり、皆さまからの協力・支援を賜りたい」と述べ、出席者は工事完了に向け、決意を新たにしました。





開所式で安全を祈願した（上）、工事所の表札が掲げられた（下）

火力部 火力発電所の運転技術に関する技術競技会を開催

2月13日、火力部は火力技術訓練センターで、火力発電所の運転技術に関する火力技術競技会を開催しました。

本競技会は、火力部門の使命である電力の安定供給と安全確保を果たしていくために、運転技術・技能の維持・向上などを目的として、平成23年から開催し今年で3回目となります。

競技会の冒頭であいさつに立った樋口火力部長は「安価で良質な電気を安定的にお客さまにお届けするための源泉は技術力であり、電力マンとしての誇りと自信を持って技術力を磨いていただきたい」と述べました。

続いて、安倍副社長（火力原子力本部長）から「運転技術を磨く、技能を確認するためには競技会は良い機会である。また、競技は必ず勝つという志が大切である。競技者にとって実り多い競技会となる事を期待する」と激励の言葉がありました。

競技会は、8地点の火力発電所と火力部の合計9チーム36人が参加し競技を行いました。競技は運転シミュレータ装置で設備異常を再現し、30分以内に初動操作・波及事故防止操作などを行った後、フォローミーティングで評価者ならびに他チームからコメントが寄せられました。

審査の結果、新潟火力、秋田火力、原町火力が優秀賞に選ばれ、樋口火力部長から賞状が贈呈されました。参加者は、競技会で得た成果と課題を発電所に持ち帰り、技術・技能を更に磨き水平展開していくことを誓い合いました。





各チームとも全力で競技に臨んだ（上）、優秀賞の3チームへ樋口火力部長より賞状が贈呈された（下）

平成27年度採用計画

2月27日、当社は平成27年度採用計画を発表し、平成27年度の採用数を220人としました。

これは、来るべき本格的な競争時代に向けて、環境変化に的確に対応できる効率的な人員体制を構築しつつ、安全確保を前提とした安定供給の遂行や、技術・技能の継承といった点を勘案して計画したものであり、平成25・26年度の採用数と同規模となります。

■平成27年度採用計画の内訳

	事　務	技　術	合　計
大学・大学院	40人	70人	110人
高専・高校	10人	100人	110人
合　計	50人	170人	220人

〈参考：採用数の推移〉

年　度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度(内定)
採用数	511人	392人	346人	321人	223人	220人

営業部門2年目教育を実施

営業部は、2月3日から5日にかけて営業・料金部門に所属する入社2年目の社員を対象に営業部門2年目教育を実施し、61人が受講しました。

この教育は、業務に密接したテーマを自ら選定し、業務の適正化・品質向上・効率化に向けて、PDCAサイクルを通じた「主体的行動の実践」と「自己伸長意欲の向上」を図ることを目的に、導入研修・中間研修・発表の3ステージに分けて実施するもので、今回は最終の第3ステージとなります。

受講者は、それぞれの職場において日常業務の中から抽出した課題について、上司や同僚、場合によっては他部門と連携しながら、課題解決に向けたプランの策定・実践・そして検証と一連の作業を実施し、今回、そのテーマ・実施内容・実施結果を取りまとめて発表しました。

受講者は、コメンテーターからのコメントや受講者同士で交換した意見を通して、営業部門社員としての自立や職場の中核を担う人材としての成長に向けた手掛かりとしました。

また最終日には、「理想の中堅社員」について話し合い、それらを発表・情報共有することで、中堅社員に向けたステップアップを図りました。





受講者から熱心な発表が行われた(上),コメンテーターから感想やアドバイスが寄せられた(下)

新潟支店 新潟県ミニバスケットボール連盟から表彰される

1月25日、新潟支店は新潟県ミニバスケットボール連盟創立20周年記念式典において感謝状を贈呈されました。

当社は、1988年(昭和63年)から新潟県と東北6県の小学生を対象とした唯一の選手権大会である「東北電力旗東北ミニバスケットボール大会」を開催しています。この活動が、同県のミニバスケットボール競技の発展に貢献したと評価され、今回表彰されたものです。

式典は当社など県内外の関係者を招いて開催されました。あいさつに立った同連盟の杉内会長は「東北電力旗の大会では、普段交流のない東北の方々と対戦できるため、関係者は皆目標としている」と述べ、感謝の言葉とともに坂本支店長に感謝状を贈呈しました。



感謝状を手にする坂本支店長

「東経連フォーラムin岩手」を開催

2月13日、(一社)東北経済連合会(会長・高橋当社会長)は、盛岡市内で岩手県商工会議所連合会とともに「東経連フォーラムin岩手」を開催しました。

冒頭、主催者を代表してあいさつに立った高橋会長は「これから東経連が重点的に取り組む事項は3点ある。第1点目は国際リニアコライダー(ILC)の誘致で、東北発展の最重要プロジェクトと位置付けている。第2点目は観光振興であり、観光の活性化に向け、『東北ブランド』を確立し、国内外にアピールしていきたい。最後の第3点目はエネルギー問題である。日本国内では全ての原子力発電所が停止しているため、エネルギー供給は不安定で価格も上昇している。国内産業の国際競争力を守るためにも、安全性が確認された原子力発電所については早期稼働を望む」と述べました。

続いて前岩手県知事の増田寛也野村総合研究所顧問が「東日本から生まれる日本の新たな成長」をテーマに講演しました。同氏は日本の少子高齢化と人口減少を踏まえつつ、「地方においては子どもを産む若者世代が首都圏へ流出し、人口減少を加速させている。地方の中核都市に若者が働ける場をつくらなければ地方の市町村が消滅する恐れがある」と力説しました。また、ILCの話題にも触れ「アジア初の国際科学イノベーション拠点が東北に実現することで、将来を担うグローバル人材と新産業が東北から創出される」と述べました。





高橋会長は今後の重点的な取り組みについて述べた(上),講演後増田顧問(右から3人目)を囲んで懇親を深めた(下)

コンプライアンス講座

これってどうなの？



談合って何がいけないの!?

ある日，鈴利 守（りんり まもる）さんは同僚の壇 豪（だん ごう）さんから，新しい委託契約を締結するために競争入札をしたいと相談されました。

壇　「今度，新たに委託契約を締結するんだけど，委託価格を引き下げるために競争入札を実施しようと考えているんだ。でも，最近，ニュースでよく，談合とかカルテルなんて話題を耳にするからなんだか不安で…」

鈴利　「確かに最近のニュースでは談合に関する話題をよく耳にするね。特に話題になったケースでは，電力会社が発注した送電線工事での談合や，自動車の海運輸送をめぐる談合で大手の海運会社に対して高額な課徴金が課されるなんていうものもあったね。」

壇　「そうそう，課徴金が数百億円になっていたりしてるのを見てると，自分の仕事がもしかしたら談合に関わったりしないだろうかと不安になっちゃうんだよ。」

鈴利　「そもそも談合とは何かを簡単に説明するね。談合とは，工事や物品などの調達に関する入札の際，入札参加者間で，受注する事業者や受注金額などを決めてしまう行為のことなどをいうんだ。適正な競争入札の場合は，入札金額のうち，一番安い金額で入札した事業者が受注することになるんだけど，談合によって事前に事業者間で受注金額を決めてしまうことによって，それ以上価格が安くならないんだ。だから，独占禁止法によって厳しく禁じられているんだよ。」

壇　「確かに，事前に事業者間で落札価格が決められていると，競争発注の意味が失われるね。発注者側として注意することって何かあるの?」

鈴利　「発注側として特に注意することは，談合を誘発，助長することだね。さっきの話に出た送電線工事の談合でも，発注者側の担当者が，事前に非公開の予定価格を事業者側に漏らしていたことが，談合を助長しているとして公正取引委員会から改善を求められていたね。特に電力会社の場合は，総括原価方式だから，工事費や資材費が電気料金として跳ね返ってくるため，社会からは電力会社のコスト意識には厳しい目が向けられているんだよ。」

壇　「社会に受容される行動となるように，コスト意識を高めていくことが必要なんだね。」

鈴利　「資材や役務の調達価格低減や透明性・公平性の確保を目的に，平成25年度から調達改革委員会が設置されているんだ。今後迎えることとなる本格的競争時代に打ち勝っていくためにも，談合などの不正を行わないことはもちろん，社員一人一人がコスト意識を高く持って，お客さまから選ばれる企業になっていくことが求められるね。せっかくの機会だから東北電力企業行動指針※1や資材部から出されている『他電力会社における不適正事例を踏まえた取引先とのコミュニケーションの留意点について』※2も確認してみてね。」

※1　東北電力企業行動指針　2.企業倫理・法令遵守の徹底（1）公正な取引の確保「独占禁止法をはじめとする取引に関する法令等を遵守し，公正かつ自由な競争を前提に取引を行います。」

※2　資材部『他電力会社における不適正事例を踏まえた取引先とのコミュニケーションの留意点について』（2月17日「H.A.N.D.S.お知らせ」より。）

法務室（事業法務）

平成26年2月
大雪による被害
岩手・宮城・福島を中心に被害多数

平成26年2月8～10日，15～17日にかけて発達した低気圧の通過により関東・甲信・東北地方を中心に記録的な大雪を観測し，当社管内では岩手・宮城・福島を中心に供給支障が多数発生し，広範囲に渡って停電が発生しました。

復旧工事では積雪や強風により現地への到着が阻まれるなど復旧作業に影響を及ぼしましたが，現場での懸命の作業により停電を解消しました。

供給支障状況

■2月15～17日の停電戸数

支店	最大停電戸数	延べ停電戸数
青森	2,544	5,382
岩手	14,033	38,074
秋田	0	0
宮城	6,175	12,103
山形	1,614	2,728
福島	15,966	39,473
新潟	103	118
計	25,866※	97,878

※全店大での最大停電戸数（2月16日4時15分）

停電の主な原因など

大雪や強風の影響による倒木で配電線が断線したことなどが今回の停電の主な原因です。これに加え，積雪量が多いことで除雪に時間がかかり供給支障発生地点への到達に必要以上に時間を要したことなどから停電が長時間に渡った地域もありました。

稼働人員について

今回の復旧作業には多くの方々が携わり，当社社員と協力工事会社を加えた稼働人員（配電部門）は延べ4,679人（2月8～10日，2月15～17日の合計）でした。また，各事業所間で応援体制が取られたことなどから2月17日中には停電を解消（福島県の避難指示区域内の停電箇所を除く）しました。

岩手支店管内



久慈営業所管内　倒木により配電線が損傷（2月16日撮影）



宮古営業所管内　倒木の影響により電柱が折損（2月16日撮影）



大船渡営業所管内　倒木の影響により配電線が断線（2月15日撮影）

宮城支店管内



白石営業所管内
倒木の影響により電柱が折損（2月15日撮影）



白石営業所管内
積雪が深いため復旧作業に着手できない個所は電源車で応急送電を行った（2月17日撮影）



白石営業所管内　支店管内から応援隊を派遣して早期復旧を図った（2月17日撮影）

福島支店管内



福島市大森地内
送電線が断線し大きく垂れ下がっている
（2月15日撮影）



田村郡小野町地内
復旧作業の様子
（2月19日撮影）



郡山営業所管内
倒木により配電線が損傷（2月15日撮影）



相双営業所管内
積雪で車両が進入できない地域は徒歩で向かった
（2月9日撮影）

長い間ありがとうございました

退職者の方々

平成26年1月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの



福島支店付
東北電広社出向
鈴木 芳光



福島支店付
ユアテック出向
菅野 正司



秋田支店
伊藤 公克



電力流通本部電力システム部付
ユアテック出向
櫻田 誠幸



情報通信部付
東北インテリジェント通信出向
山崎 和孝



経理部付
東北電広社出向
太田 清代志



盛岡技術センター
鈴木 敏之



新発田営業所
配電計画課
北村 秀次



山形営業所
お客さま提案課
山口 昭吾



盛岡営業所
配電技術サービス課
田口 修



新潟支店付
ユアテック出向
前田 和志



新潟支店付
日本海エル・エヌ・ジー出向
江口 章



新潟技術センター
発変電工事課
高橋 孝治



新潟技術センター
送電技術課
内山 雅栄



福島技術センター
発変電業務課
滝沢 実



仙台技術センター
送電技術課
三浦 勇一



秋田技術センター
発変電業務課
佐藤 吉弥



【お詫びと訂正】 Bridge2月号 平成26年3月期（平成25年度）第3四半期決算の概要（11ページ），「経常損益に係る主な要因」において「受取配当金の減少として▲285億円程度」と記載すべきところを誤った記載をしておりました。お詫びをして訂正いたします。

社内テレビ放送
NEWS スクエア

都合のよい日時を選んで，
ぜひご覧ください。
お問い合わせは，下記の担当者まで
お気軽にどうぞ。
ご意見・ご感想・情報提供なども
お待ちしています。

広報・地域交流部（広報・交流企画）
藤田 保安.910-3026,w080643

第1・第3 月曜日～水曜日に 放送

放送時間
9時，10時，12時，
12時40分，
13時10分，17時，
17時30分

Bridge 3
March Vol.644 2014
東北電力社誌「ブリッジ」

編 集 後 記

今月号は「震災から3年」をキーワードに様々な角度からお届けできたのではないかと思います。さて、3年前の自分のことを振り返ってみますと，震災当時，私は出向していて，このBridgeで被害の大きさや懸命に復旧作業にあたる社員の姿を見て、直接復旧に関わることのできない歯がゆさを感じていたことを記憶しています。今号をお読みになり，震災後の3年間を振り返るきっかけにしていただけたのでしたら幸いです。

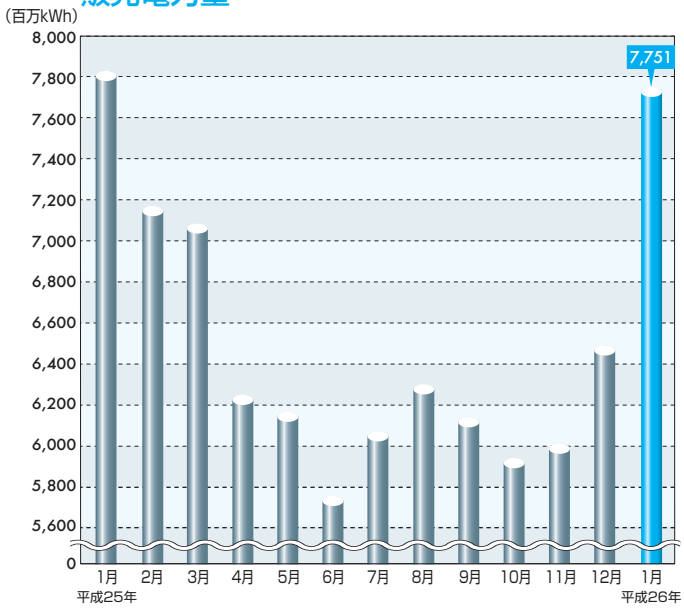
最後に今月号の制作にあたり，ご協力いただいた方々にこの場をかりて御礼申し上げます。

広報・地域交流部（広報・交流企画）鈴木　保安.910-3023,w040147

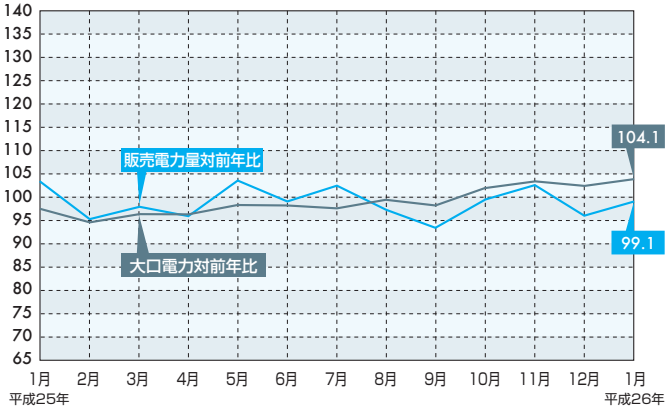
DATAfile

電力需給実績（平成26年1月分）

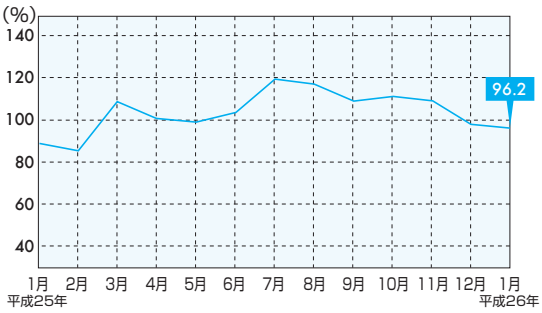
販売電力量



販売電力量対前年比・大口電力対前年比

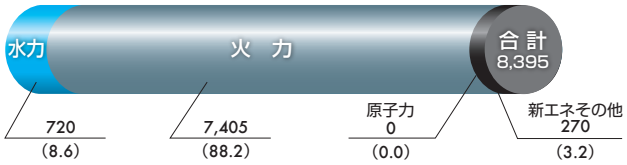


出水率



エネルギー種別別発受電電力量

（百万kWh）（　）内は構成比%



■電力需要について

1月分の販売電力量は,77億5,100万kWh,対前年比99.1%の実績となりました。震災からの復興や大口電力における生産回復の動きはみられるものの,気温が前年に比べ高めに推移したことによる暖房需要の減少などから,2カ月連続で前年実績を下回りました。

【特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）】

電灯は,震災からの復興の動きがみられるものの,気温が前年に比べ高めに推移したことによる暖房需要の減少などから,対前年比97.2%の実績となり,2カ月連続で前年実績を下回りました。

特定規模需要以外の需要の合計では,対前年比96.2%の実績となりました。

【特定規模需要（自由化対象のお客さま）】

業務用電力は,震災からの復興の動きがみられるものの,気温が前年に比べ高めに推移したことによる暖房需要の減少などから,対前年比98.9%の実績となりました。

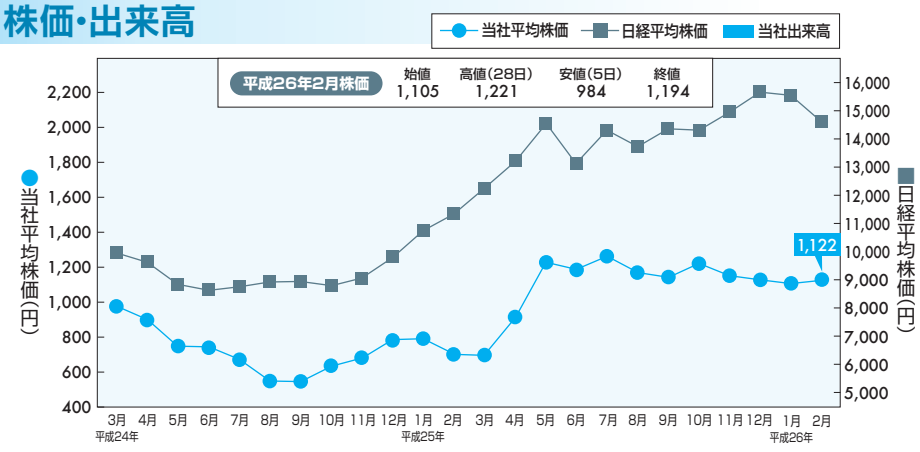
特定規模需要の合計では,対前年比101.6%の実績となりました。

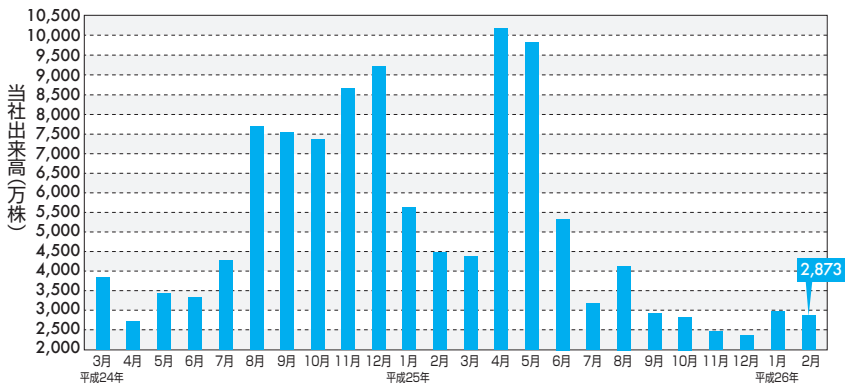
なお,産業用その他電力については,大口電力が大きなウエートを占めており,その概要は以下の参考のとおりです。

[参考]大口電力

大口電力は,生産回復の動きがみられることなどから,対前年比104.1%の実績となり,4カ月連続で前年実績を上回りました。

株価・出来高







「配当政策」

企業が株主に利益還元する方法には,大きく分けて「現金配当（配当）」と「自己株式取得」の二つがあり,配当に関する基本的な方針を配当政策といいます。

当社の配当政策は,「安定的な配当を行うことを基本に,当年度の業績や中長期的な収支見通しなどを総合的に勘案し決定すること」であり,日本では大多数の企業が安定配当を標榜しています。また,株主・投資家からのさらなる支持獲得のために,当期純利益のうちどの程度の割合を配当するかを示す指標である「配当性向」や,配当に自己株式取得も含めた「総還元性向」といった具体的な数値目標を掲げる企業も増加しています。

当社は,東日本大震災等による甚大な設備被害などで大幅な純損失を計上し,平成23年度の中間配当以降,配当の実施を見送ってきましたが,本年2月27日に,平成25年度の業績予想を上方修正し,一定の黒字を確保できる見通しとなったことなどから,配当実施の目処がついたものと判断し,平成25年度の期末配当予想を「未定」から1株当たり5円に修正し,公表しました。（本年6月開催予定の第90回定時株主総会で決議し,実施する予定）

今後も,効率化の徹底などにより安定配当を継続することで,株主・投資家の期待に応えていく必要があります。

Bridge 2014.3 Vol.644



発行所／東北電力株式会社 広報・地域交流部　発行人／齋藤 光春　印刷／今野印刷株式会社　平成二十六年三月十日発行

Printing. Naturally.
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は、環境にやさしい「水なし印刷」「植物油インキ」を使用しています。